

強者の戦略

論述世界史〔2018年 京都大学 第1問〕

こんにちは。研伸館の世界史の北林です。前回に過去の出題されたものと似ていると感じるかも、といったことを書きましたが、その問題とは、1999年の第1問の問題です。1999年ではどんなことが問われているかというと

- ・19世紀半ばのオスマン帝国から第一次世界大戦後のトルコ共和国ができたところまで
 - ・近代化、政体の変遷を中心に
- という内容です。

今回と時代はほぼ同じですが、テーマが違います。1999年の問題も今回の問題もしっかり問題文を読まないと、ただ政治的な流れを書くだけでは題意を満たさないことになりますから、注意してください。

<時代背景を確認>

知っていることをただ書けばいいのではありませんので、問題を一つ一つ丁寧に見ていきましょう。

「内外の圧力で崩壊の危機に瀕（ひん）していた、近代のオスマン帝国や成立初期のトルコ共和国では、どのような人々を結集して統合を維持するかという問題が重要であった。歴代の指導者たちは、それぞれ異なる理念にもとづいて特定の人々を糾合することで、国家の解体を食い止めようとした。」

オスマン帝国(トルコ)の当時の様子はわかるでしょうか。オスマン帝国の成立は1299年、15～16世紀ごろには大帝國となっていました。オスマン帝国には様々な民族が存在し、様々な宗教の人達がいきました。イスラームでは民族で人を分ける、ということより、宗教で人を分ける傾向があります。ミッレトという宗教の共同体をつくらせて、寛容に支配したことは知っていますね。

ところが様々な変化がおこります。まず18世紀以降オスマン帝国が西洋諸国の圧力を受けていきます。

また、19世紀になると西洋のナショナリズムの影響を受け、多くの民族がいるオスマン帝国の中で民族意識が芽生えていき、独立運動がおこっていくようになります。難しい局面に、戦争だけでなく政府は中央集権的制度を再構築しようとしてがんばりますが、なかなかうまくいきません。帝国の解体の危機が迫る中で、指導者はいかにして国をまとめようかと苦悩します。

<問われていることを確認>

では主問を一つ一つ丁寧にみると

「歴代の指導者」として上がっているのが4人

- 1 オスマン帝国の大宰相ミドハト=パシャ
- 2 皇帝アブデュルハミト2世
- 3 統一と進歩委員会(もしくは、統一と進歩団)
- 4 トルコ共和国初代大統領ムスタファ=ケマル

テーマ

「いかにして国家の統合を図ったかを、時系列に沿って」

以下、指導者ごとに確認をしていきましょう。

1 ミドハト=パシャ

ミドハト=パシャといえば、**タンジマート**の後の**ミドハト憲法**で**立憲政を目指した**、というのが有名ですが、背景も知っておきたいところです。

当時オスマン帝国では、**帝国民を民族・宗教を越えた一集団とする主張**が現れました。**オスマン主義**、といいます。知識人達は「**新オスマン人**」と称して立憲政を目指しました。しかしこれらは、民族意識の台頭により次第に消滅していきます。

2 皇帝アブデュルハミト2世

憲法に基づいて議会が開かれたものの、**露土戦争**を**口実に憲法を停止**し、皇帝は議会を閉鎖して専制政治をはじめていきました。このとき皇帝は**パン=イスラーム主義**を主張し、自分がムスリム全体を指

強者の戦略

導するカリフであることを強調して、国内外のイスラームの支持を得ようとした。パン＝イスラーム主義とは、思想家アフガーニー(イラン出身だがアフガン人、と称した)が唱えた、ヨーロッパ帝国主義に抵抗するためにイスラームで協力して「イスラーム世界」を打ち立てよう、という考え方です。オスマン帝国では前述の通り、政治的に利用されていきます。

3 統一と進歩委員会(もしくは、統一と進歩団)

統一と進歩委員会、というと、いわゆる「青年トルコ人」という組織の中心となる組織です。彼らがミドハト憲法の復活を求めた、というのは有名ですが、彼らはオスマン帝国をトルコ民族国家だと考えて青年トルコを名乗っていたことも忘れないでください。ただ、徐々にパン＝トルコ主義が高まり、オスマン帝国領内だけでなく、世界中のトルコ系言語の人達と一体となろうという思想が現れてきます。当然これはオスマン帝国領内の他の民族から反感をかいますが、トルコ民族主義は第一次世界大戦後に引き継がれていきます。

4 トルコ共和国初代大統領ムスタファ＝ケマル

第一次世界大戦後のセーブル条約で解体の危機に瀕したオスマン帝国では、ムスタファ＝ケマルがアンカラに大国民議会を組織し、彼はトルコ民族主義を主張し、アナトリアに住む人々から熱狂的な支持をうけます。ムスタファ＝ケマルは革命を起こし、トルコ共和国を成立させ、近代化政策を打ち出します。カリフ制廃止やマドラサの廃止、ローマ字採用、太陽暦の採用、そしてトルコ語や民族史教育研究の奨励など、脱イスラームとトルコ民族主義を強調する改革を打ち出しました。

では、以上をヒントに解答文を作成してみましょう。

【解答例】

19世紀後半のオスマン帝国では、帝国民を民族・宗教を越えた一集団とする主張が現れ、知識人達は「新オスマン人」と称して立憲政をめざし、これを背景にミドハト＝パシャが憲法を発布した。アブデュルハミト2世は露土戦争を口実に憲法を停止し、専制政治とパン＝イスラーム主義で帝国再建を目指した。これに対し帝国をトルコ民族国家と考える知識人達は「青年トルコ人」と称し、統一と進歩団を結成した。彼らは革命で立憲政を復活させ、後にパン＝トルコ主義での団結を求めた。ムスタファ＝ケマルはスルタンを追放して共和国を建設し、カリフ制廃止やトルコ語や民族史教育研究の奨励など、脱イスラームとトルコ民族主義を強調する改革を行った。(300字)

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんので、「これはどうだろうか？」と気になるところが出てくるとと思います。その際は遠慮なく質問してください。そして添削を希望される方も遠慮なくおっしゃってください。

ではまた次回、お会いしましょう。

北林久忠